



坂東彦三倭一流第二編上之卷
 芳川春涛園岡本起泉綴揚洲
 周延画島鮮堂綱島癸克



凡そ世の面白くぬりぬりハ演劇の三立目と草冊子の初編なるが
 就中其の冊子の如きハ素より杯と暗き云訳とせざるハ可き只
 何事も明らう終看客のお眼が曇らぬ鏡とあり一面影と
 其まゝに寫し出したる坂東彦三を結來歴の節々一十ヨツ
 ヒリ艶と附焼双とゆりより鈍き記者の筆ちのゆを長い見物
 方の欠ハ千里ぬ不評の基りちゆ少一で話さ一築地の善次が
 一龍と殺害あさんび見所も委細御覽入色何をもハ即ち
 三編でたうふりく

明治十三年六月

岡本起泉題



坂東彦三倭一流第二編上之巻
 芳川春濤園岡本起泉綴揚洲
 周延画島鮮堂綱島弁兌



凡そ世の面白くぬるは演劇の三五目と草冊子の初編たるが
 就中その冊子の如きは素より採と暗き云訳とせざるは是れ只
 何事も明らう給看客のお眼が曇らぬ鏡とあり一面影と
 其まゝに寫し出したる坂東彦三を結來歴の節々一子ヨツ
 ヒリ艶と附焼双とゆふより鈍き記者の筆たるのを長い見物
 方の欠の千里ぬ不評の基のち少くや話さ築地の善次が
 一龍と殺害をまんば見所も委細御覽入色に何をせし即ち
 三編であらう。

明治十三年六月

岡本起泉題





五代目
坂東彦三郎

藝子
一龍

小間物屋
黒木屋熊藏



依客
鳴神五郎兵衛



おはさん
色とるせ
くまめらまら

おはさん
おはさん
おはさん

○小人宛にされば多小座とて思ふも
今いをれおはさんおはさんおはさん
おはさんおはさんおはさん
おはさんおはさんおはさん

△たがきく何れもひと下さげ
おはさんおはさんおはさん
おはさんおはさんおはさん
おはさんおはさんおはさん

おはさんおはさんおはさん
おはさんおはさんおはさん
おはさんおはさんおはさん

三三三三三

三



本良屋の
後家お艶

女髪結
か角

三三三三三

三



二人が此場の
 行ふに附せん
 とやうき
 ひとねい
 五帝去来
 マア愛心
 彼をいそ
 ぶとよ
 那西一
 後今一
 一松さん
 係細い

△たさくつ橋の
 彼方の花
 美小冠
 〇そんなさきさき入一切おきや一今迄の
 あり何となく月
 の物
 熊が甘
 生あらと
 か
 け
 の幕七
 あり工
 拍子
 捕死
 〇一松さん
 係細い



一松
 三帝
 ねい
 聖むた
 うきん

たさくつ橋の
 彼方の花
 美小冠
 〇そんなさきさき入一切おきや一今迄の
 あり何となく月
 の物
 熊が甘
 生あらと
 か
 け
 の幕七
 あり工
 拍子
 捕死
 〇一松さん
 係細い

